

命を守る5つのポイント

1. 家族と話し合おう！

災害発生時の集合場所や連絡方法などを共有しましょう。連絡手段（災害用伝言ダイヤル、通信各社の災害用伝言板など）の使い方も事前確認が大切です。



2. 災害備蓄品を準備



災害復旧まで自力で生活するために必要な物品を、最低でも3日分、できれば7日分以上準備しましょう。

備蓄品(例)

- 食事（水・非常用食品）
- 懐中電灯
- 携帯ラジオ
- 現金・通帳・ハンコ
- バッテリー類（モバイルバッテリー・電池）
- 医薬品（常備薬・救急用品）
- 衛生用品（ビニール袋・ティッシュ・歯ブラシ・マスク）
- 防寒（タオル・衣類）
- 必要に応じて備蓄
 - 軍手 □ベビー用品
 - 介護用品
 - 生理用品



3. 家具の転倒から身を守る

地震が起きたとき、家具が倒れてきて下敷きになったり転倒した家具がドアをぶさいだりする恐れがあります。転倒防止器具でしっかりと固定しましょう。

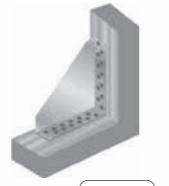
！ポイント！

転倒防止は「ネジ止め」が基本！賃貸住宅などで難しい場合は、突っ張り棒とストップーや粘着マットなどを併用しましょう。



4. 建物倒壊を防ぐ

過去の地震を見ると、建物倒壊による被害は昭和56年5月以前の住まい（旧耐震基準の住宅）に多く生じています。ぜひ、耐震改修を検討してください。



耐震改修の補助金▶



5. 災害発生！ 避難先は？

災害が発生し、建物内に留まることが危険な状態になった場合は、落ち着いて避難する必要があります。自分の住む地域の一時的避難場所や拠点避難所などを確認しておきましょう。

避難所の確認▶



新たに「WEB版水害ハザードマップ」を作成しました。スマートフォンのGPSを活用し、現在地の浸水想定を素早く調べられます。

水害ハザードマップ▶



おりますことにあらためて敬意と感謝を申し上げます。被災された皆さんのが一日も早く安心した生活を送ることができますよう心からお祈り申しあげますとともに、引き続き、能登への支援に努めてまいります。

「市民協働」で広がる支援

市制施行以来、本市では「市民協働」をまちづくりの基本に掲げ、市民と行政が共に手を携えてさまざまな施策に取り組んできました。能登半島地震でも、行政による支援に加えて、市民の皆さん一人一人が能登を想い、自分たちができる支援を考え行動している姿に、これまで進めてきた「市民協働」の輪の広がりを感じているところでございます。

一人一人が考え、行動する

近年、世界各地で頻発する豪雨災害や干ばつ、「災害級」とも言われる猛暑など、私たちの生活を取り巻く環境は自然災害の危険と常に隣り合わせと言えます。これから防災計画などを見直すに当たり、これらの状況をしっかりと認識し、災害は「起きるもの」として向き合っていく必要性を感じています。市民一人一人が災害について考え、行動する意識を醸成し、災害に強い野々市市を市民の皆さんと共に目指していきたいと思います。



野々市市長
栗 貴章

市民一人一人が考え、行動する 被災地支援と災害対策

謹んで、新年のご挨拶を申し上げます。平素より市政の推進に対しまして格別のご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

公共施設2カ所で受け入れました。このような避難所の開設・運営は初めてのことであり、受け入れ当初は手探りの状態ではありました。が、さまざまな団体や事業者の皆さんによる炊き出しや物資の提供、交流イベントの開催など、思いやりにあふれた温かいご支援をいただき、無事、避難所運営を務めることができました。



昨年発生した能登半島地震と奥能登豪雨は、私たち石川県民がこれまで経験したことのない被害をもたらしました。人知を超えた自然の脅威を知られ、多くの尊い命が犠牲となられるなど深い悲しみに包まれた一年がありました。あらためて、お亡くなりになられた方々に深く哀悼の意を表しますとともに、被災された皆さんに心よりお見舞いを申し上げます。

被災地への派遣と避難所運営

本市では、能登半島地震において大きな被害は確認されなかつたことから、発災直後から給水車や保健師の派遣など、可能な限りの被災地支援に努めました。広域支援としては、1月から約半年間、輪島市鶴巣地区の避難者の皆さんを市内

結びに、皆様にとりまして、本年が実りある一年となりますようお祈り申し上げます。

また、現在も本市に避難されている被災者の方に向けて、さまざまな団体の皆さんのが支援イベントを開催されるなど、見知らぬ土地での不安な避難生活や、それに伴う心の負担を少しでも和らげようと活動されて

市民同士の交流



市ホームページ内の「市長の部屋」では、市長のメッセージを毎月掲載しています▶

